



「自然や環境」のことに触れなくなったり、  
ライフスタイルを考えたりするヒントが  
この「エイ・エイ」の中に入っていますヨ。



CONTENTS

- ◆あまピヨ「木の実と仲間探しの旅」vol.4
- ◆情報交流コーナー：あま・あま・ポン  
・「緑も水辺も育む賞」感謝状を贈呈しました
- ◆尼崎物語vol.6「街歩きをしながら時々見かける石碑」
- ◆尼崎の海への恩返し  
～尼崎の海と運がでの  
新たな挑戦とその担い手たち～
- ◆What's「尼崎21世紀の森づくり？」

「ei,ei」  
Aa  
（環境とライフスタイルを考えるフリーマガジン）2020年4月25日発行 NPO尼崎21世紀の森 <http://www.amashin.or.jp>

## 「あましん」地域の環境文化の創造活動

第9回「あましんグリーンプレミアム」の最優秀賞や各部門賞が決定しました。

今回で9回目となる「あましんグリーンプレミアム」。2019年6月3日から8月21日の期間で募集を行い、120先(120案件)のご応募をいただきました。第1次、第2次の書類審査を経て、11月21日に行われたプレゼンテーションによる最終選考の結果、最優秀賞には宝栄産業株式会社様の「光触媒塗料による日常的なCO<sub>2</sub>削減への取り組み」が選ばれました。今回の受賞は、産官学での光触媒遮熱断熱塗料の共同開発に成功し、従来技術では成し得なかった塗料による日常のかつ持続的なCO<sub>2</sub>削減に貢献されている同社の取り組みが高く評価されたものです。

最優秀賞  
宝栄産業株式会社



作田誠司理事長／宝栄産業株式会社様

12月2日、都ホテル尼崎で授賞式が執り行われ、最優秀賞ならびに各部門の5団体の皆さまが参加されました。

基調講演では国連環境計画・金融イニシアティブの特別顧問を務められる末吉竹二郎氏をお迎えし、『SDGsが求める21世紀のビジネスの在り方』をテーマにこれからの環境問題や政府・企業の社会的責任などについてお話しいただきました。



授賞式に臨まれた皆さま

## 尼崎21世紀の森 あましん植樹祭


2019年10月26日、尼崎の森中央緑地において、「あましん植樹祭」を開催しました。9回目となる今回は、第7回定額積立定期預金「どんぐりの木」に加入され「苗木の里親」として2年間、手塩にかけて苗木を育てていただいた皆さまをはじめ、公募で集まっていた皆さま600名、当金庫役員900名を合わせた1,500名が参加しました。

オープニングセレモニーでは当金庫の橋本博之会長のあいさつに続き、来賓を代表し、荒木一聡 兵庫県副知事、森山敏夫 尼崎市副市長にごあいさつをいただきました。今年は、約1,000m<sup>2</sup>にクヌギやガマズミなど1,000本を植え、当金庫がこれまでに地域の皆さまと植樹した苗木は合計20,000本となりました。



「尼崎21世紀の森づくり」を応援しています。



 **尼崎信用金庫**

AMASHIN

<http://www.amashin.co.jp>

あましん 検索







# 綿花と海と 尼崎の発展



かやぶき古民家

「尼崎21世紀の森」で生まれた「あまびこ」が森を出て尼崎の森の仲間を紹介するよ!

## 江戸時代、武庫川下流の 一帯が綿花の畑だった

「みをつくし料理帖」で大ヒットしたたかだかお高田郁さんが、現在執筆を続けている人気シリーズ「あきない世傳金と銀」江戸時代に呉服商として成功していく一人の女性を描いたこの小説。

この物語の潮流をなしているのが、「綿花」です。作品中に、武庫川下流一帯に綿畑が広がる風景が描かれています。実は、この「綿花」と「尼崎の海」と「尼崎の工業化」には、深いつながりがあったのです。

## 尼崎の海と鰯

現在の尼崎臨海部は工場が立ち並びコンクリートの岸壁で固められ気軽に海に近づくとはいけません。しかし、かつての海辺は武庫川が運んだ土砂が堆積し、遠浅の海が広がっていました。そこでは地曳網漁が盛んで、大量のイワシを獲ることができたため、そのイワシを干し、保存性を高めた干鰯ほしかという肥料が作られ流通するようになりました。



綿の花

## 鰯と綿花

尼崎は、江戸時代には武庫川下流の一帯、現在の国道43号以南の道意町や元浜町あたりで、新田開発進み農地が広がっていました。この頃には、商業が発達し、それまで自給自足が中心だった農村にも商品経済が入り込んできて、いい値段で売れ、現金収入を得ることができた作物として綿の栽培が急速に進みました。そして、干鰯は綿花栽培に欠かせない肥料だったのです。

干鰯は肥効成分が豊富で、その当時のスーパー有機肥料です。綿一本に対して干鰯一匹を土中に差し込んで肥料にしていたといわれ、このことで綿の実が大きくなり、収穫量が格段に増えたそうです。

従来の農家の肥料は、草や落ち葉を堆肥にしたり、人や家畜の糞尿を発酵させていたのですが、その効果は干鰯には遠く及びません。干鰯は、お金で買わないといけない肥料なので、金肥と呼ばれていました。農家は、お金でこの肥料を買い、大きく綿花を育てることで利益を出すことができました。農村の経済は、今までの自給自足から商品経済へと大きく転換していききました。



綿の実

## 「阪上綿」の誕生

近くの海で鰯が獲れ干鰯が手に入れたやすかったこと、商業の中心地大阪に近く綿を流通させやすい立地だったこと、武庫川の運ぶ土砂で作られた砂地で綿の栽培に適した土壌だったことなど、自然や文化的な様々な要因が重なって、尼崎を含む摂津地域は、全国的にも一大綿花の生産地となりました。さらに、全国に綿花栽培が広がると、他の地域と差異化を図るため、綿花の改良が進み、「阪上綿」と呼ばれる質の高い綿織物を生み出しました。

## 綿花栽培がきっかけとなった 尼崎の工業化

この上質な阪上綿を活用するために、尼崎紡績会社が明治22年設立され、尼崎の地で紡績産業が始まり、それが尼崎臨海工業地帯の幕開けとなっていったのです。

しかし、当時この海浜部で栽培されていた綿花は、日本在来の「和綿」という綿で、繊維が太く、短いため機械紡績に向いていませんでした。そこで、繊維が長く、機械紡績に適した安価な洋綿が輸入されるようになり、和綿の栽培は急速に廃れていきました。

## 尼崎の綿花の復活



下を向いてはじける実

県立尼崎の森中央緑地内にある、かやぶき民家。この民家の前には畑が作られ、昔の尼崎の風景を彷彿とさせます。ここで活動を開始した「かやぶき民家友の会」の皆さんは、2019年より和綿の栽培に取り組んでいます。

残念ながら、かつての尼崎で作られていた「綿の種」は引き継がれていませんが、大阪府八尾市の農家が栽培を続けていた種から育つています。



綿打ち

## 2. 綿打ち

綿毛で包まれた種と綿毛を分けるため綿繰り機というローラーにかけます。この時取れた種を絞ると「綿実油」という油が搾れます。またこれも江戸時代に欠かせない灯油となっていました。

## 1. この綿毛がどうやって布になっただろうか?

実は1カ月程度で熟成し、実が割れ中から白い綿花がでてきたら収穫できます。ふわふわの綿花は、綿の花ではなく種とそれを包む綿毛です。

5月に種蒔した綿花は、8月ごろから開花が始まります。花は一日でしぼみ実がその後、実ができません。この畑はまだできたばかりで、土に栄養分が足りないため、綿はあまり大きく成長しませんでした。これから干鰯も復活させ、土に入れると成長に差がでてくるかもしれません。

## 3. 糸紡ぎ

昔は、弓のような弦を弾き振動で綿をほぐしていました。今回の活動では、羊毛などの繊維をカードという大きなブラシを使い綿の繊維をマット状にします。このマットを割箸を芯にして巻き取り、「このまき」というローリングにします。



綿繰り機

## 4. 機織り

できた糸を用いて、機を用いて布を織り、木綿の布の完成です。

このように、綿花から木綿の布ができていくためには、多くの人手を必要としたため、農村内で、綿の加工、手工業、商業が発達していききました。「あきない世傳金と銀」の物語の中でもこの様子が描かれています。

**和綿と洋綿、何が違うの?**

和綿は、繊維が太く短いため機械紡績には適さず、糸や布にするには手作業中心になります。多くは、中入れ綿(手芸・半量用)や布団、衛生材料などに使われます。

洋綿は、和綿に比べ繊維質が長いので、機械紡績に適し、世界の繊維づくりの主流です。

**「かやぶき民家友の会」**  
毎月2回程度活動しています。  
畑づくりや綿の加工、昔の遊びなども実施しています。

活動案内はこちら  
<http://ama21mag.jp/>

お問い合わせ  
兵庫・尼協・阪神共同体  
尼崎の森中央緑地パークセンター  
〒660-0096 兵庫県尼崎市扇町33-4  
TEL06-6412-1900 FAX06-6412-0500  
E-Mail: info\_amamori@hyogopark.com





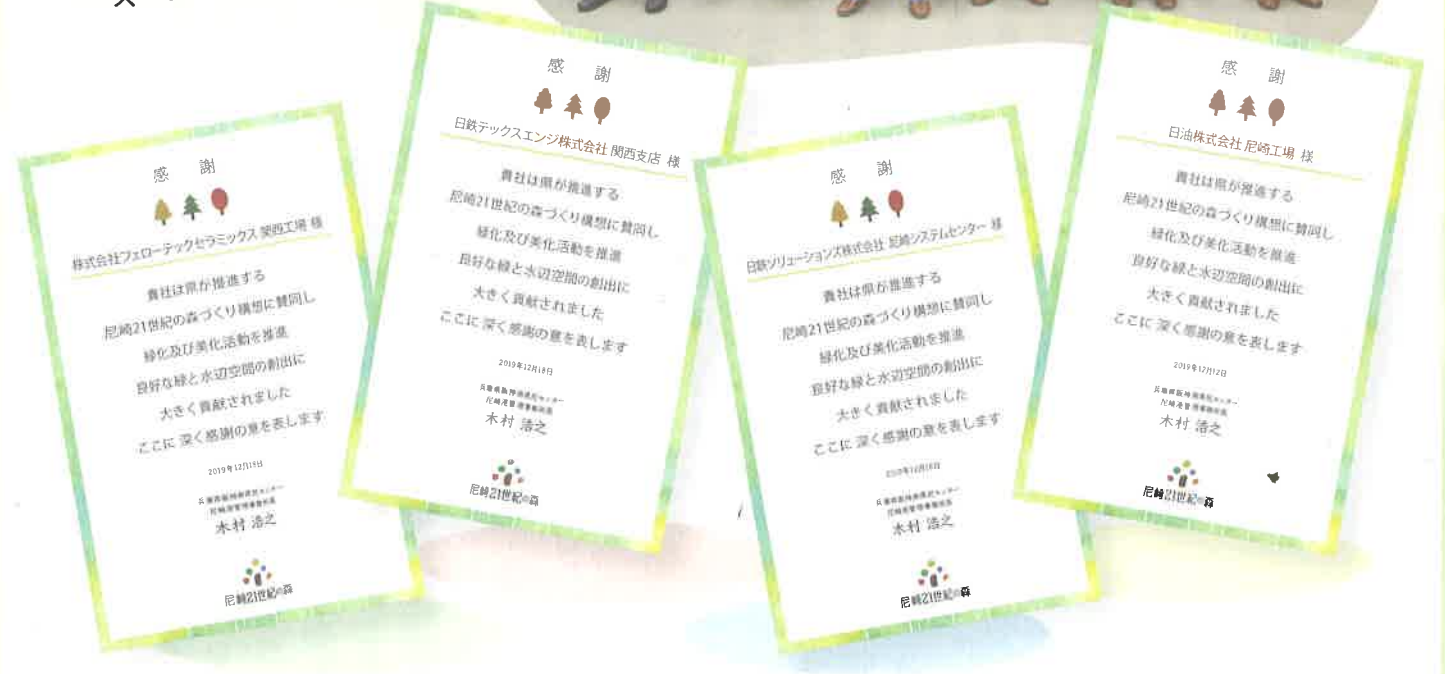
その企業のみなさんから、「今回を契機に取組みをさらに進めていきたい」との力強い言葉をいただきました。今後でも協力をお願いするともに、活動が他の企業に広がることを期待しています。

尼崎21世紀の森構想がめざす「森と水と人が共生する環境創造のまちづくり」には、皆さんのご協力が欠かせません。この構想区域内には多くの企業や事業所が立地していることから、企業関係者の自主的な取組みが、特に重要になります。

兵庫県尼崎港管理事務所では、道路や運河沿いの公共空間で緑化活動、美化活動に取り組んでいる企業に対し、「緑も水辺も育む賞」の感謝状を贈呈させていただきました。



- 被贈呈者(五十音順)
- 日油株式会社 尼崎工場 (尼崎市大浜町1丁目56番地)
  - 日鉄ソリューションズ株式会社 尼崎システムセンター (尼崎市東向島西之町1番地)
  - 日鉄テックスエンジニアリング株式会社 関西支店 (尼崎市東向島西之町1番地)
  - 株式会社フェローテックセラミックス 関西工場 (尼崎市東向島西之町1番地)



【尼崎物語】未来と過去をつなぐ旅

## vol.6 街歩きをしながら時々見かける石碑



難波熊野神社の梅

街歩きをしながら時々見かける石碑。歴史を辿る時の見方でもあります。こういうのは一体誰がいつ作ったんだろうと思うていたら、「昭和天皇大典記念碑一覽」という資料を見つけました。尼崎青年団や在郷軍人会、婦人会などが昭和3年に建立した、歴史のひとコマを記念する石碑です。前回登場の「大物崩れの碑」もその一つ。戦前のものですから、無くなったり新しく作られたものもあるようです。

大典というのは、天皇が即位した時に行われる様々な儀式のこと。昨年の改号の際も大きな話題になりました。その大典を記念して様々な事業が行われてきたのですね。大正天皇の大典記念では尼崎市写真帖が作られ、市政初期の貴重な写真が今に残されました。この写真帖はデジタル化され、尼崎市立地域研究史料館で閲覧することができます。

まずは東難波、西難波にあったとされる

現尼崎城の近く、尼崎市立明城小学校の南西角の尼崎城跡の碑も、昔のまま残っています。

そこから国道43号線と庄下川をはさんだ南西の位置に、江戸から大正まで魚市場として賑わった中在家があります。京都御所にも魚を納めていたそうで、今



阪神尼崎駅南口の時計台

代、私たちはなにを未来に伝えるのでしょうか。

「なにわの梅」の碑。この里の梅林を仁徳天皇が愛でて都に持ち帰ると、なにわの方を向いた枝しか花を咲かせなくなつたので、また、元の里に戻されたという伝説があります。大典記念のものかはわからないのですが、難波熊野神社には碑がいくつもあり、梅伝説を今に伝える梅まつりが毎年開かれています。

南に下り、寺町にある廣徳寺には秀吉ゆかりの碑。明智勢から逃げた秀吉が、この寺で味噌を練る僧に化けたという伝説があり、寺にはその時のすり鉢が今もあるそう。

の旧左門殿川は、当時、魚の運搬のために整備されて「碇の水尾」と呼ばれていました。この記念碑は見つからなかったのですが、江戸末期の商家の建物が住宅地の中に残っています。市場から工場に変わりながら今も運搬に使われる川は、少しノスタルジックな景色です。

阪神尼崎駅まで戻ると、南口正面には時計台が。一覧には載っていませんがこれも大典記念に作られたもの。大きな駅とビルの間でうっかり通り過ぎてしまいました。昔はきつと、市民に時を知らせる頼もしい時計台だったのでしよう。

元号が変わることの意味は、今と昔では違うはず。一つの節目に、歴史や人の役に立つものを未来に残したいという先人たちの想いも、今よりずっと強かったのかもしれない。



昭和天皇大典記念碑



尼崎城跡の碑



昔の旧左門殿川



中在家に残る本田家住宅は登録有形文化財になっています

(文・写真 横山知代子) ご協力: 辻川 敦氏(尼崎市立地域研究資料室館長)

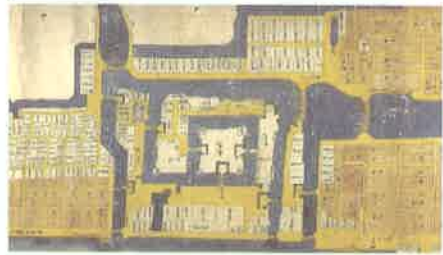




尼崎臨海部にかつての**自然環境=美しさ**を取り戻したい。  
日本の**発展を支えてきた誇り**を取り戻したい。  
かつてこの地に存在した**人間の活気**を取り戻したい。

そんな願いを込めて、平成14年3月に  
『**尼崎21世紀の森構想**』は、策定されました。それが尼崎市全体に  
美しさと誇りと活気を取り戻すきっかけになれば、という希望を持って。

江戸時代



この尼崎には尼崎城という江戸幕府の直轄地であった、大坂の西の玄関口を守る重要拠点があったのをご存知ですか?

明治から昭和



この尼崎臨海地域が関西の重化学工業の中心集積地として、わが国の産業や経済の高度成長を支える役割を担っていた事をご存知ですか?

近年



巨大工場が建設され一時的に臨海部での産業の活性化に期待が高まるも、世界経済の波の中で再び冷え込んでいる事をご存知ですか?

明治の初め



この瀬戸内海が「世界で最も魅力的な景観」と絶賛されていたのをご存知ですか?

昭和40年代



この尼崎市が国道43号・阪神高速神戸線とともに公害問題が深刻化し、「公害のまち」という不名誉な称号を与えられた事をご存知ですか?

これから『**尼崎21世紀の森構想**』

かつての**自然環境=美しさ**  
日本の**発展を支えてきた誇り**  
**人間の活気**  
を取り戻したい。



環境改善を利用した先進的な「森づくり」それが『この尼崎21世紀の森構想』の本質です。ナカナカ素敵な計画だと思いませんか? 100年間のこの計画、進めて行けるのは、この尼崎が大好きな一人ひとりの市民、企業の皆さんなのです。

「環境とライフスタイル」を考えるフリーマガジン

エイ・エイ: 2020年18号(4月25日発行)  
NPO 尼崎21世紀の森 Aa 編集部  
ホームページ <http://ama21mori.net/>  
〒660-0815 尼崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F  
TEL 090-8233-4079

Chief Editor 岸本 幸三

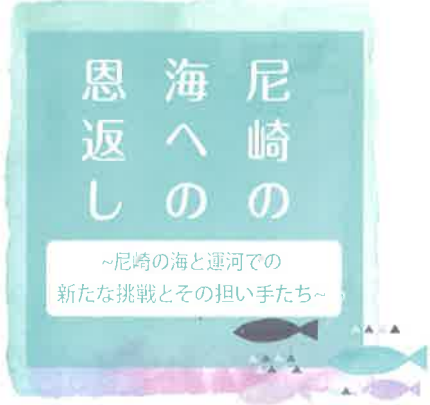
Editor/Writers 池田 和也 幸野 里砂 藤原 悟  
泉原 久人 菅 真澄 舟田 温子  
石井 康之 中岡 禎雄 山本 仁湖  
薄井 洋一 守 宏美 横山知代子  
枝川 利雄 森井 敬介  
太田 洋平 森上 恒  
Designers 児玉 泰江 鳥山 大樹 ヒロコ・TG  
杉本さやか 田万まどか

Print ウニスガ印刷(株)

(枝川 利雄)

昨年4月尼崎港管理事務所に転勤してきました枝川と申します。よろしくお願ひします。かつて環境が課題であったころ、尼崎市に住んでいましたが、大気や水など自然環境が改善された現状は、当時とは隔世の感があります。また、工場移転などのためか、働く人の減少も実感されます。すこしでも、地域の活性化や環境改善等に役立てればと感じています。

あこがき



~尼崎の海と運河での新たな挑戦とその担い手たち~

ネイチャークラブは、自分たちの生きる地域の環境をより良くしていくことを目的に平成19年(2007年)に結成されました。  
結成当初からの中学生が中心となって取り組んでいた、尼崎の海や運河での環境学習や体験活動は、今では小学生から大人まで幅広い人々が「集い」、「学び」、「遊び」、「つながり合う」活動に発展してきました。

「尼海の会」の取り組み

私たちは2010年度に、尼崎市民の皆さんや徳島大学、兵庫県立尼崎小田高等学校、兵庫県、尼崎市、フェニックスセンター、団体等と連携して尼崎の海の環境改善活動を行うために「尼海の会」を結成しました。

新しい取り組み

これまで多くの人々が参加し、尼崎の海とふれあいながら私たちの地域の海が抱える問題について考えその解決に向けて活動してきました。そして、遂に2020年度から私たちの町を



これまで多くの人々が参加し、尼崎の海とふれあいながら私たちの地域の海が抱える問題について考えその解決に向けて活動してきました。そして、遂に2020年度から私たちの町を

尼崎の海では、冬には海の水質浄化や生物多様性を目指してワカメを栽培して収穫。春から夏には大量に防潮堤に繁殖する貝類が死んで海底に沈んでヘドロになる前に採集してワカメとともに堆肥にしました。尼崎運河でも、水質浄化施設に繁殖する藻類や貝類で堆肥をつくり、秋からはワカメや貝から作った堆肥を使って菜の花を栽培し、次の春には菜種を収穫し油を搾って調理に利用した後廃油はバイオディーゼル燃料へと精製し、車や発電機を稼働させるエネルギーへと利用。このように海と大地そして人々の生活をつなぐ「命の循環」に取組んできました。

町の新たな担い手たち

これまでネイチャークラブの活動に参加してきた小中学生たちは高校生、大学生、社会人に成長し、「新たな挑戦」にも参加してくれています。

2020年1月には尼崎運河での魚のすみかとなるシエルナースというカゴを徳島大学の尼崎運河研究班の学生の指導で小中学生が製作、水質浄化施設の周りに設置し、どのような生きものがすむつか観察していきます。

2019年9月に干潟づくりの前に周辺の漂着ゴミを回収し、10月には、尼崎の海に砂を運び入れ、小さいながらも人工の干潟を完成させることができました。



市民大学である「みんなの尼崎大学・海洋学部」を設立することで、より多くの方々と楽しみながら学び活動することができるようになりました。

そこには世界の環境問題に目を向け、「自分たちの力で自分たちの生きる環境をより良くしていこう」という共通の思いがあります。その思いを育むことができたのは、ただ指示されたことをするのはなく、何をすべきか考えて動くこと。

「何故?」「本当にこれでよいのか?」、自分で調べ、自分で感じて答えを出すことの大切さを尼崎の町のために尽力してきた志高い大人たちから学べたからです。  
持続可能な開発目標(SDGs)に対する取り組みが世界各国で行われる中、工業を中心として世界の産業に貢献してきた尼崎の町には、世界に環境に貢献できる頼もしい若者たちが育っています。



ナカオカ サダオ 中岡 禎雄  
ネイチャークラブ体験教育研究所 代表  
徳島大学 理工学部 非常勤講師  
芦屋大学 教育学部 非常勤講師

